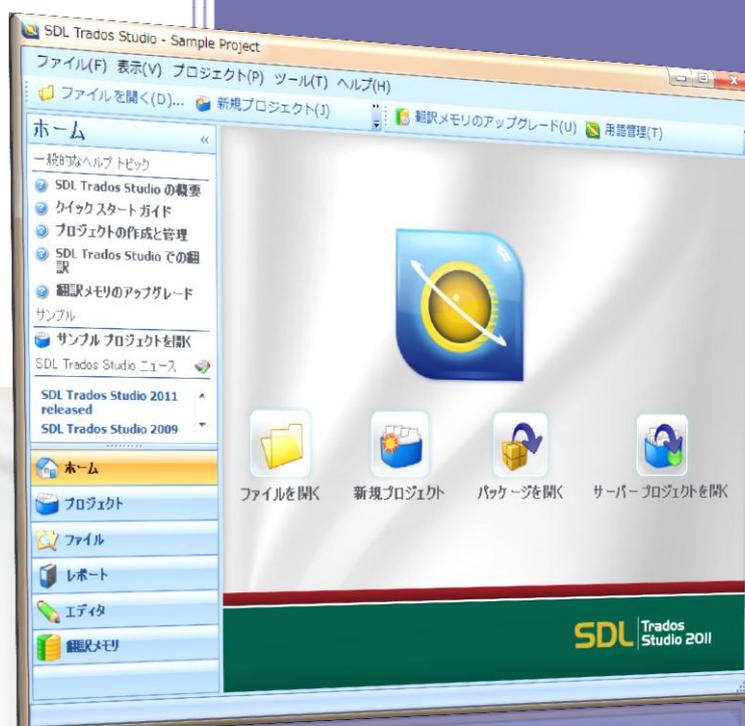


# SDL Trados Studio 2011

## 入門ブックレット

# 翻訳メモリってなに？



作成：秋桜舎

2011/12/27

## 目次

|    |  |    |
|----|--|----|
| 1. | <b>翻訳メモリとは</b> .....                   | 4  |
|    | 翻訳メモリの利点 .....                         | 4  |
|    | 翻訳メモリと翻訳ソフトの違い .....                   | 5  |
| 2. | <b>翻訳メモリのしくみ</b> .....                 | 6  |
| 3. | <b>Studio 2011 の 6 つのビュー</b> .....     | 8  |
|    | Studio 2011 の各ツール .....                | 8  |
|    | Studio 2011 の 6 つのビュー .....            | 9  |
|    | プロジェクトとビューの関係 .....                    | 10 |
|    | パッケージ .....                            | 12 |
| 4. | <b>プロジェクト ビュー</b> .....                | 14 |
|    | プロジェクトの管理 .....                        | 14 |
|    | プロジェクトの新規作成 .....                      | 14 |
| 5. | <b>ファイル ビュー</b> .....                  | 15 |
| 6. | <b>レポート ビュー</b> .....                  | 16 |
| 7. | <b>バイリンガル文書と翻訳メモリ</b> .....            | 17 |
|    | 翻訳作業の大きな流れ .....                       | 17 |
|    | バイリンガル文書と「準備」タスク .....                 | 17 |
|    | 訳文の生成 .....                            | 20 |
|    | バイリンガル文書と翻訳メモリの関係.....                 | 21 |
|    | - 翻訳メモリの変更をバイリンガル文書に反映(文書の更新)       22 |    |
|    | - バイリンガル文書の変更を翻訳メモリに反映(翻訳メモリの更新) 22    |    |
| 8. | <b>エディタ ビュー1</b> .....                 | 23 |
|    | エディタでの翻訳作業の流れ .....                    | 23 |
|    | ファイルを開く .....                          | 23 |
|    | 実際に翻訳してみよう .....                       | 24 |
|    | 100%一致の場合 .....                        | 25 |
|    | AutoSuggest 機能 .....                   | 26 |
| 9. | <b>エディタ ビュー 2</b> .....                | 27 |
|    | 一致率の設定 .....                           | 27 |
|    | 語句の変更 .....                            | 27 |
|    | 語句の削除 .....                            | 29 |

|                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 訳語検索 .....                        | 30        |
| 書式の違い(ペナルティ) .....                | 31        |
| フィルタで分節を絞り込む .....                | 32        |
| 変更履歴 .....                        | 33        |
| Word によるレビュー .....                | 34        |
| <b>10. 翻訳メモリ ビュー .....</b>        | <b>36</b> |
| 翻訳メモリの編集 .....                    | 36        |
| 原文・訳文の検索 .....                    | 36        |
| 一括編集と一括削除 .....                   | 37        |
| <b>11. 用語管理ツール MultiTerm.....</b> | <b>39</b> |
| 用語集の重要性.....                      | 39        |
| 用語集がないとチェックのコストがかさむ .....         | 40        |
| 用語管理ツール MultiTerm .....           | 41        |
| 自動用語認識 .....                      | 43        |
| 強力なあいまい検索の利点 .....                | 43        |
| <b>12. 整合ツール WinAlign.....</b>    | <b>45</b> |
| <b>13. 索引 .....</b>               | <b>46</b> |

# 1. 翻訳メモリとは

## 翻訳メモリの利点

この冊子では、翻訳メモリのしくみと翻訳メモリ ツール SDL Trados Studio 2011(以下 Studio 2011)の基本操作をご紹介します。翻訳メモリ ツールは、実務翻訳の現場で広く使われている支援ツールです。**翻訳メモリ**は、人間が訳した訳文を蓄積したデータベース、つまり訳文の「入れ物」です。**翻訳メモリ ツール**は、その翻訳メモリに溜めた訳文を再利用するためのツールです。翻訳には1字、1語単位でお金がかかります。ツールを使わない手作業では、まったく同じ文やよく似た文を**何度も繰り返し翻訳するために無駄な作業**が発生してしまいます。単に人件費を切り詰めてむりやりコストを下げるのでは、翻訳の品質が下がります。ミスが増え、チェックする人間にしわ寄せがいき、結局高くなります。

翻訳メモリ ツールを使うと、**過去に訳した箇所を再利用し、共有**できるので、効率的に翻訳できます。そのため、翻訳や校正にかかる費用、時間、労力を合理的に節約することができます。マニュアルや技術文書など似た表現が多く使用される文書はもちろん、過去の訳を流用したり、参照したりすることで、多くの翻訳形態で翻訳メモリを使用するメリットがあります。これまでに行った**翻訳を資産**と考え、いかに効率良く使用するかというのが、翻訳支援ツールの命題です。また、大量の翻訳でも表記の統一ができるため、各種業界や企業特有の専門用語がばらつかず、**正確で、読み手に分かりやすい翻訳**ができます。

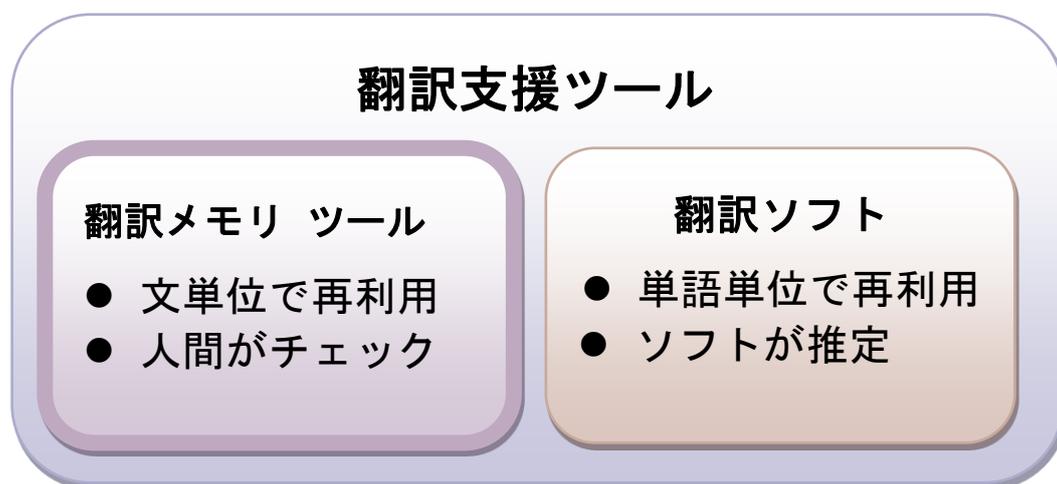


翻訳メモリって  
便利なのね！



## 翻訳メモリと翻訳ソフトの違い

翻訳支援ツールには、翻訳メモリ ツールと翻訳ソフトがあります。よく誤解されているのですが、「翻訳メモリ ツール＝翻訳ソフト」ではありません。この冊子でご紹介するのは、「翻訳ソフト」ではなく**翻訳メモリ ツール**です。



## 「翻訳メモリ＝翻訳ソフト」ではない

最近では翻訳メモリ ツールに翻訳ソフトの機能が取り込まれる一方、翻訳ソフトにも翻訳メモリ ツールの機能が取り込まれています。しかし、翻訳メモリ ツールと翻訳ソフトは、動作の基本原理がまったく異なるので、区別する必要があります。それぞれに長所と短所があり、使い方によってはどちらも便利な道具です。しかし、うまく使いこなすためには、基本的なしくみをよく理解する必要があります。

**翻訳メモリ ツール**は、人間が翻訳した訳文を「**文単位で再利用**」します。どの訳文のどこを再利用するかは人間が必ずチェックします。自動的に翻訳されるのは、以前の訳文を 100%再利用できる場合のみです。

**翻訳ソフト**や翻訳サイトでは、「設定不要でクリックするだけで訳文が出る」と思われがちですが、それはあくまで非翻訳者が使う場合です。翻訳者が業務で翻訳ソフトを使う場合は、専門的な調整をします。特定分野の用語集に基づいたユーザー辞書を適用することで、訳語を「**単語単位で再利用**」します。どのように訳語を適用するかは、翻訳ソフトが構文と品詞を解析し、文法に基づいて推定します。翻訳者は、その推定が可能な限り正しくなるようにユーザー辞書を調整します。ユーザー辞書を使わず統計を使う方式もありますが、日本語と英語のように構造が大きく異なる言語どうしでは、ユーザー辞書を使うほうがよい結果になります。

## 2. 翻訳メモリのしくみ

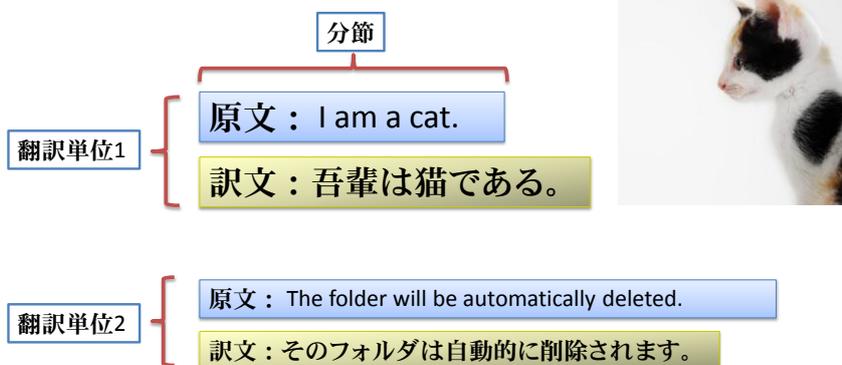
翻訳メモリについてもう少し詳しく見てみましょう。翻訳メモリでは、翻訳する単位として、通常、1文(センテンス)の区切りを**分節**と呼びます。これは英語の segment の訳語で、「分ける節」と書いて分節です。文法でいう「文節」ではありません。分節は通常、1つの文に対応します。原文1分節と訳文1分節のペアを**翻訳単位**と呼びます。以下の図では、原文"I am a cat."と訳文「吾輩は猫である。」が1つの翻訳単位です。

6

### 翻訳単位とは

「文」節ではない  
のである

- 翻訳単位=原文と訳文のペア



翻訳メモリにはこの翻訳単位がたくさん蓄積され、必要に応じて**再利用**できます。1人の翻訳者だけでなく、多くの翻訳者の**翻訳の成果を共有**することができます。



翻訳メモリでは、「文書中の原文」と、「翻訳メモリ中の原文」を一つ一つ比較して、再利用できる部分を探します。

図 1 翻訳メモリと作業文書

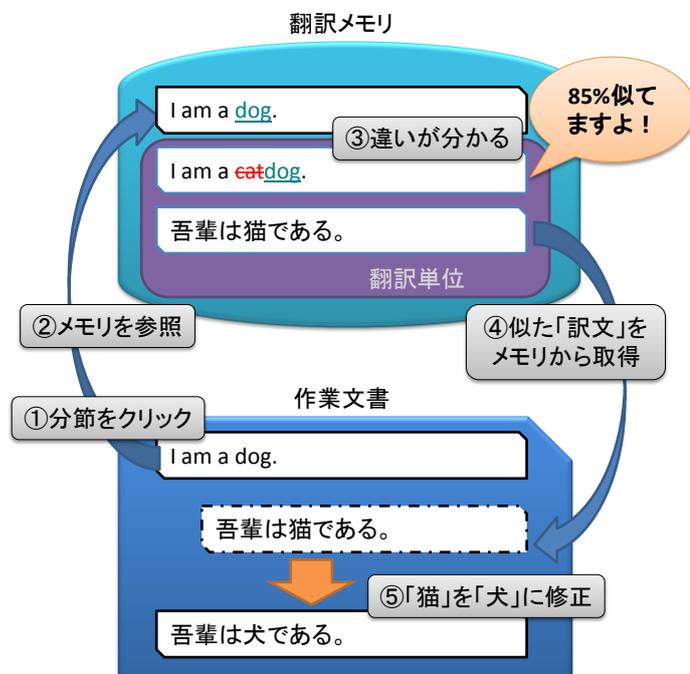


図 1 では、以下の 5 つの手順で、原文を再利用しています。これが翻訳メモリの作業の基本的な流れです。

- ① 分節をクリック
- ② メモリを参照
- ③ ハイライトで違いが分かる
- ④ 似た「訳文」をメモリから取得(コピー)
- ⑤ 「猫」を「犬」に修正

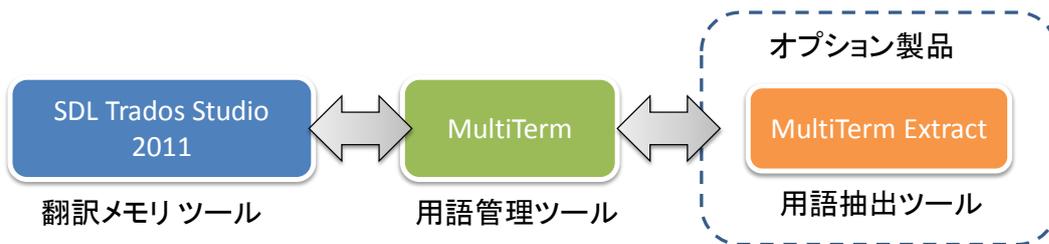
翻訳する分節をクリックすると、翻訳メモリが参照され、似た文が提示されます。文書中の原文 1 つと、翻訳メモリ中の原文 1 つを比較して、**一致率**というパーセンテージでどれだけ似ているかを示します。すでに訳した原文と訳文のペア、つまり翻訳単位中の原文が高い割合で一致していれば、それだけ多く再利用できます。原文中の 1 文字、1 語でも違っていれば、ペアになっている訳文も違うはずですので、その訳文を修正する必要があります。「どこがどのように違うのか」ということは色で示されるのですぐに修正ができます。一致率を**比較するのは原文どうし**ですが、取得(コピー)されるのはその**原文に対応する「訳文」**であることに注意してください。これから、より実際的な例でご紹介していきます。

# 3.Studio 2011 の 6 つのビュー

## Studio 2011 の各ツール

Studio 2011 には、翻訳に必要な機能が一つにまとめられています。図 2 は Studio 2011 の各ツールの関係を示しています。Studio 2011 自体にも用語をチェックする機能はありますが、Studio 2011 に付属する用語管理ツール MultiTerm (39 ページを参照) を使って、用語集の高度な検索や管理ができます。また、オプション製品として、用語集を作成するための用語抽出ツール MultiTerm Extract があります (別冊子を参照)。Studio 2011 には、整合ツール WinAlign も付属しています。「整合」とは、翻訳メモリを使わずに翻訳した原文文書と訳文文書を文単位で突き合わせて、翻訳メモリを作成することです。詳しくは 45 ページを参照してください。

図 2 Studio 2011 の各ツール



## Studio 2011 の 6 つのビュー

図 3 は、Studio 2011 の実際の画面です。図の左下の、赤線で囲まれた領域(ナビゲーション ペイン)をクリックして、ホーム、プロジェクト、ファイル、レポート、エディタ、翻訳メモリの 6 つのビューを切り替え、翻訳作業を進めます。以下はホーム ビューです。

図 3 ホーム ビューとナビゲーション ペイン



ホーム ビューはさまざまな作業の出発点です。どう進めていいか迷ったら、ここに戻ってみるとよいでしょう。画面を広く使いたい場合には、上図のように「《》ボタンをクリックして、ナビゲーション ペインを折りたたむこともできます。

下図は、ナビゲーション ペインを拡大した図です。6 つのビューの機能を簡単にまとめると、以下のようになります。

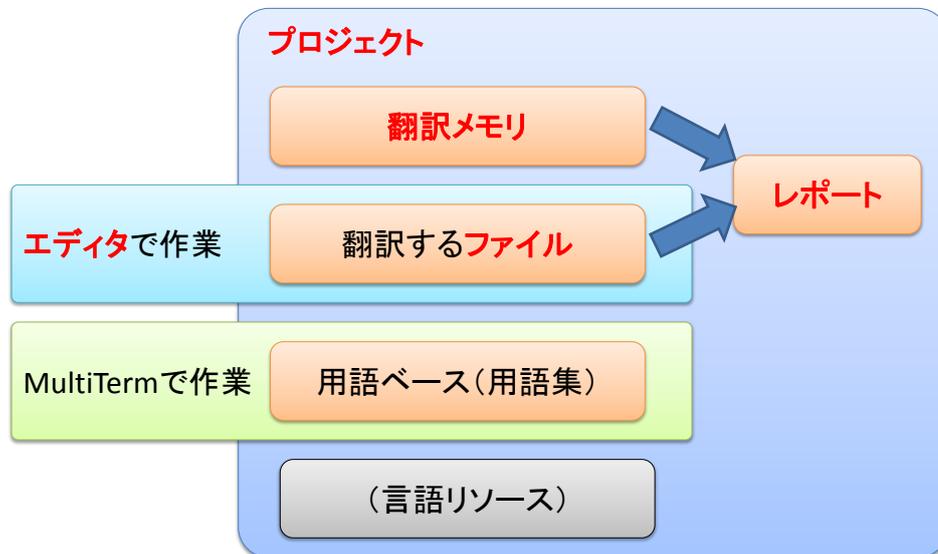
図 3 ナビゲーション ペインの 6 つのビュー

|  |                        |
|--|------------------------|
|  ホーム    | さまざまな作業の出発点です。         |
|  プロジェクト | 翻訳プロジェクトを作成・管理します。     |
|  ファイル   | プロジェクト内のファイルを管理します。    |
|  レポート   | プロジェクトについてのレポートを表示します。 |
|  エディタ   | 各ファイルに対して翻訳作業をします。     |
|  翻訳メモリ  | 翻訳メモリを編集します。           |

それぞれのビューについては、以下の章で順にご説明します。

## プロジェクトとビューの関係

プロジェクトとは、1 つの翻訳業務にかかわるすべての情報をまとめた、翻訳作業の枠組みです。「ホーム」を除く 5 つのビューとプロジェクトの関係は、以下の図のようになります。



上図で、プロジェクトの各要素に対応するビューは赤字で示しています。それぞれ、プロジェクトはプロジェクト ビュー、ファイルはファイル ビュー、レポートはレポート ビュー、翻訳メモリは翻訳メモリ ビューで管理・操作します。

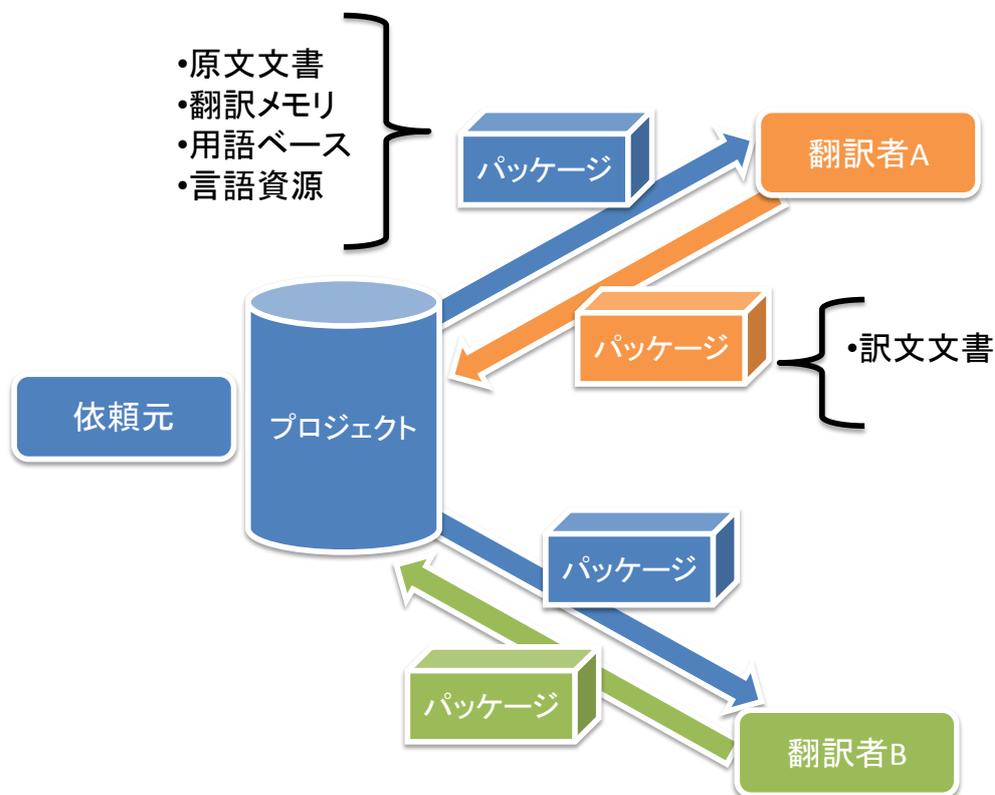
翻訳するファイルは、翻訳メモリと用語集を使いながら翻訳してゆきます。1 つのプロジェクトには、複数のファイルを含めることができます。ファイル全体に対する操作は、ファイル ビューで行いますが、ファイル

の中身に対しては、**エディタ ビュー**で翻訳作業をします。翻訳メモリとファイルに関する情報を解析してまとめたものが**レポート**です。用語ベース(用語集)とMultiTermについては、39 ページでご説明します。

プロジェクトには、言語リソースが含まれることもあります。言語リソースとは、略語、どこで文を区切るかの規則、翻訳不要の語句リストなどの要素です。

## パッケージ

翻訳に必要なさまざまな情報を含むプロジェクトは、下図のように**パッケージ**という単一のファイルにまとめてやり取りできます。**パッケージ**には**翻訳作業に必要な情報がすべて含まれています**。



パッケージを使わない方法だと、翻訳者は、実際の翻訳作業に入る前に、原文および訳文フォルダ、翻訳メモリ、用語集などが揃っているかを確認し、準備する作業が必要です。いくつかの電子メールや FTP などバラバラに送られてきて、一部だけは以前のものを再利用する、といった場合、勘違いして古いファイルを使う危険もあります。また、発注者とは別に、翻訳者自身がこれらをすべてきちんと管理する必要があります。パッケージを使えば、翻訳者は、プロジェクトの作成や管理、ファイルがどこにいったかなどを気にせず、発注者が作成したパッケージを受け取り、**翻訳作業をすぐに始める**ことができます。また、発注側(あるいは翻訳会社)にとっては、メールでなにが必要でどう配置するかを説明する手間が省け、翻訳者側で必要なものが揃っているかを心配しなくてもよくなります。翻訳作業が完了すれば、作業済みのパッケージを電子メールや FTP など返送します。

翻訳依頼元と翻訳者の両方が Studio 2011 を導入済みの場合、たとえば以下のようなシナリオが考えられます。

1. 依頼元がパッケージを作成して翻訳者に FTP など送信します。複数の翻訳者が作業する場合は、元のプロジェクトに含まれる複数の原文ファイルを、それぞれの翻訳者が担当する分に分割し、パッケージを作成して、それぞれの翻訳者に送信します。
2. 翻訳者は、受け取ったパッケージを開いて、すぐに作業を始めることができます。
3. 作業が終われば、翻訳者もまた訳文ファイルをパッケージとしてまとめて依頼元に送り返します。
4. 依頼元では、受け取ったパッケージを元のプロジェクトに取り込みます。

また、翻訳者と同様に、校正者にもパッケージを送信して、校正を依頼することができます。

(※パッケージは、Studio 2011 Professional でのみ作成可能です。)

# 4. プロジェクト ビュー

## プロジェクトの管理

プロジェクト ビューに切り替えると、下図のように同時に**複数のプロジェクトを管理**できます。



それぞれのプロジェクトの締め切りが右上に表示されます。画面下のタブを切り替えて、それぞれのプロジェクトの情報を確認できます。プロジェクト全体でどこまで翻訳が進んでいるかも一目で分かります。これから作業するプロジェクトを選択すると、**太字で表示**されます。次のファイル ビューでは、このプロジェクト ビューで選択したプロジェクト内のファイルが表示されます。まず作業するプロジェクトを選び、その中で翻訳するファイルを選択する、という手順になります。

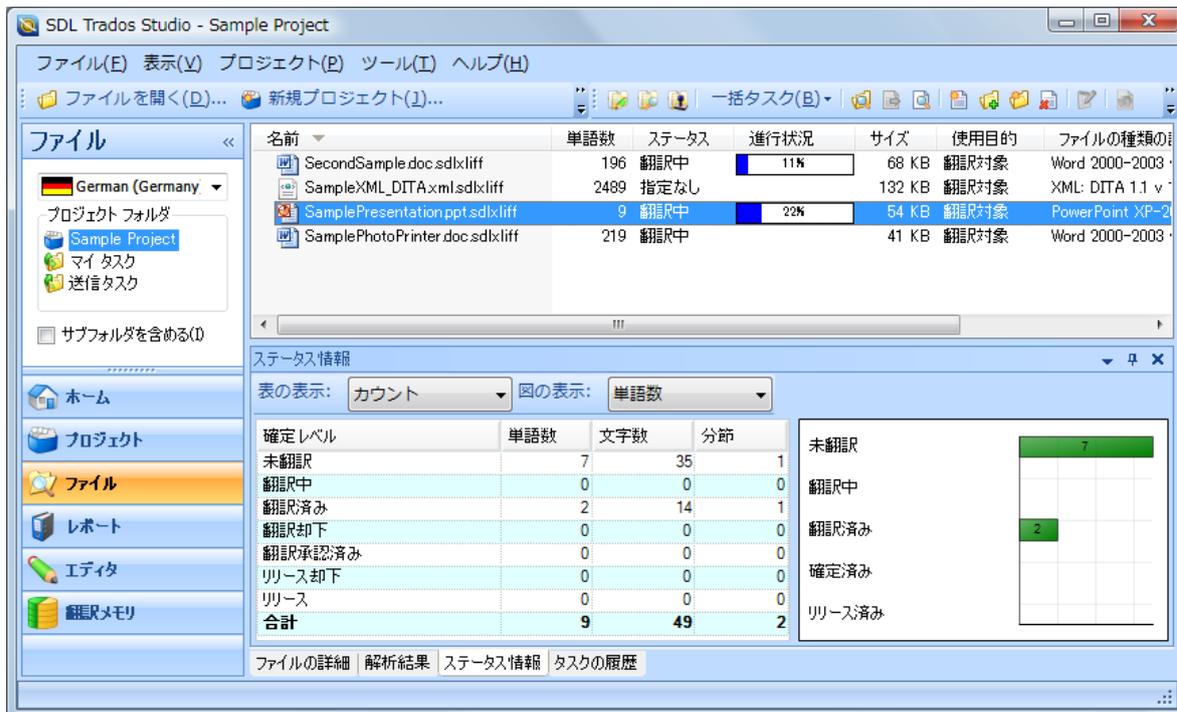
## プロジェクトの新規作成

Studio 2011 では、プロジェクトが、さまざまな要素をまとめている枠組みとなっているため、作業の最初ではまずプロジェクトを作成します。プロジェクトを作成するには、ツールバーで、[新規プロジェクト]をクリックします。ウィザードが開始されるので指示に従います。プロジェクトでは、1 つの原文言語に対して複数の訳文言語を選択できます。たとえば、英語の原文を、日本語と中国語に翻訳する場合は、1 つのプロジェクトで管理できます。プロジェクトの新規作成で**最低限必要なのは、翻訳の対象である、原文ファイル**だけです。翻訳メモリや用語集がなくてもすぐに作業を開始できます。

## 5. ファイル ビュー

ファイル ビューに切り替えると、下図のようにプロジェクトに含まれる原文・訳文それぞれの**ファイルを管理**できます。

図 4 ファイル ビュー

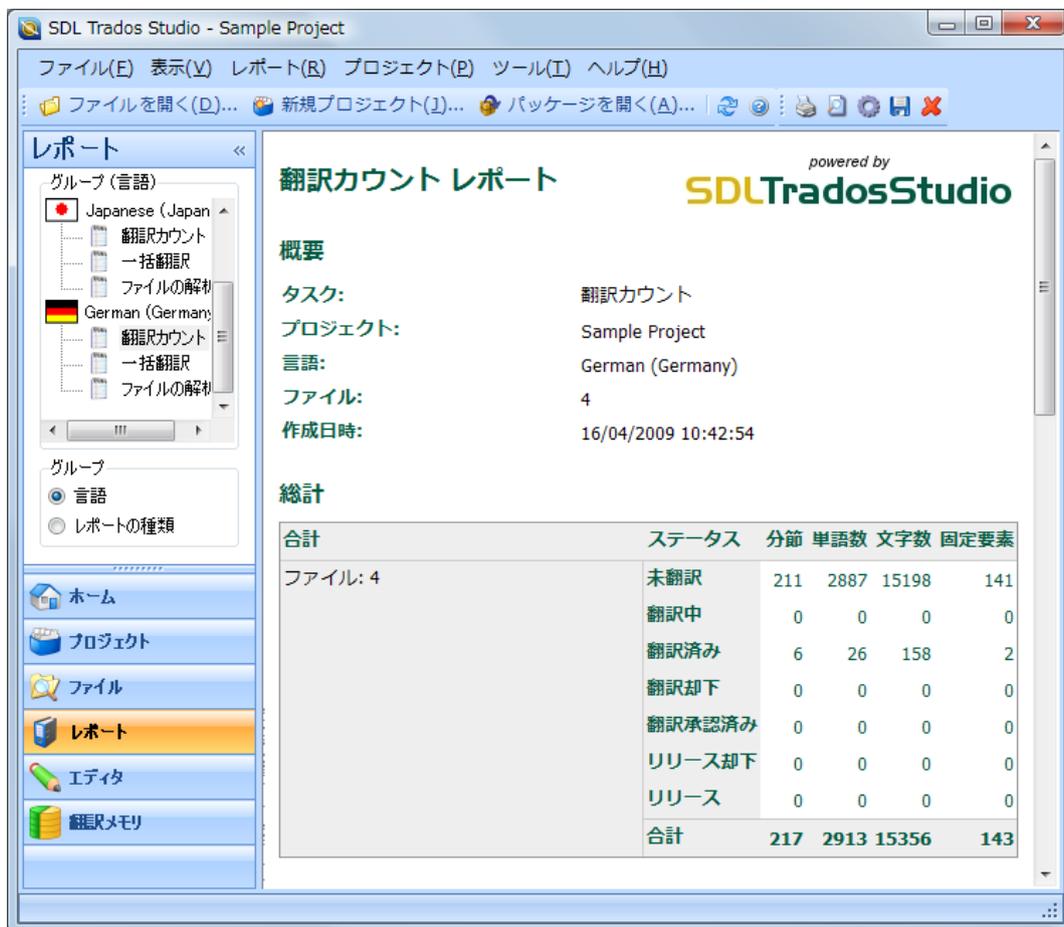


ファイル ビューでは各ファイルの情報を表示し、それぞれのファイルでどこまで翻訳が進んでいるかを画面の下部で確認できます。Word、PowerPoint、XML などそれぞれのファイルの種類(ファイル形式)が画面右側に表示されています。またここでは、**どのファイルを翻訳するかを選択**できます。表示されているファイルをダブルクリックすると、エディタ ビューに切り替わり、それぞれのファイルでの翻訳作業を開始できます。

このビューに切り替えたときは、まず画面左上で、**訳文言語を選択**する必要があります。上図ではドイツ語が選択されています。複数の訳文言語に翻訳している場合は、目的の訳文言語を選択します。日本語に翻訳する場合は、日本語を選択します。

## 6. レポート ビュー

レポート ビューに切り替えると、下図のようにプロジェクト全体と、プロジェクトに含まれるそれぞれのファイルに関する情報をまとめて表示できます。



The screenshot shows the 'SDL Trados Studio - Sample Project' window. The 'Reports' pane on the left is active, showing a tree view with 'Japanese (Japan)' and 'German (Germany)' groups. The main area displays the 'Translation Count Report' (翻訳カウント レポート) powered by SDL Trados Studio. The report includes a summary section with the following details:

- タスク: 翻訳カウント
- プロジェクト: Sample Project
- 言語: German (Germany)
- ファイル: 4
- 作成日時: 16/04/2009 10:42:54

Below the summary is a 'Total' (総計) table with the following data:

| 合計      | ステータス  | 分節  | 単語数  | 文字数   | 固定要素 |
|---------|--------|-----|------|-------|------|
| ファイル: 4 | 未翻訳    | 211 | 2887 | 15198 | 141  |
|         | 翻訳中    | 0   | 0    | 0     | 0    |
|         | 翻訳済み   | 6   | 26   | 158   | 2    |
|         | 翻訳却下   | 0   | 0    | 0     | 0    |
|         | 翻訳承認済み | 0   | 0    | 0     | 0    |
|         | リリース却下 | 0   | 0    | 0     | 0    |
|         | リリース   | 0   | 0    | 0     | 0    |
|         | 合計     | 217 | 2913 | 15356 | 143  |

ここでの複数ファイルにわたる語数、字数のカウント情報は、見積りの作成などに使えるようにまとめられています。この情報を直接印刷したり、Excel や XML などの各種形式で出力したりできます。

ムリのない作業計画を立て、期限内にプロジェクトを確実に完了するには、**作業量の正確な見積もりが必須**です。複数の訳文言語に翻訳しているときは、それぞれの言語ごとに情報が表示されます。レポートの種類ごとに表示することもできます。ファイルをあとで追加した場合は、ファイル ビューでファイル(複数選択可能)を右クリックし、[一括タスク]→[翻訳カウント]でカウントをし直すことができます。

レポート ビューには、ワード カウント情報のほかにも、一致率ごとの解析結果や、一括翻訳の結果、翻訳ステータスごとの統計結果なども表示されます。翻訳済みプロジェクトに対する検証結果も、このビューで確認します。

# 7. バイリンガル文書と翻訳メモリ

## 翻訳作業の大きな流れ

この章では、訳文ファイルの作り方、バイリンガル文書と翻訳メモリの関係についてご紹介します。翻訳作業のより大きな流れとしては、以下のようになります。



17

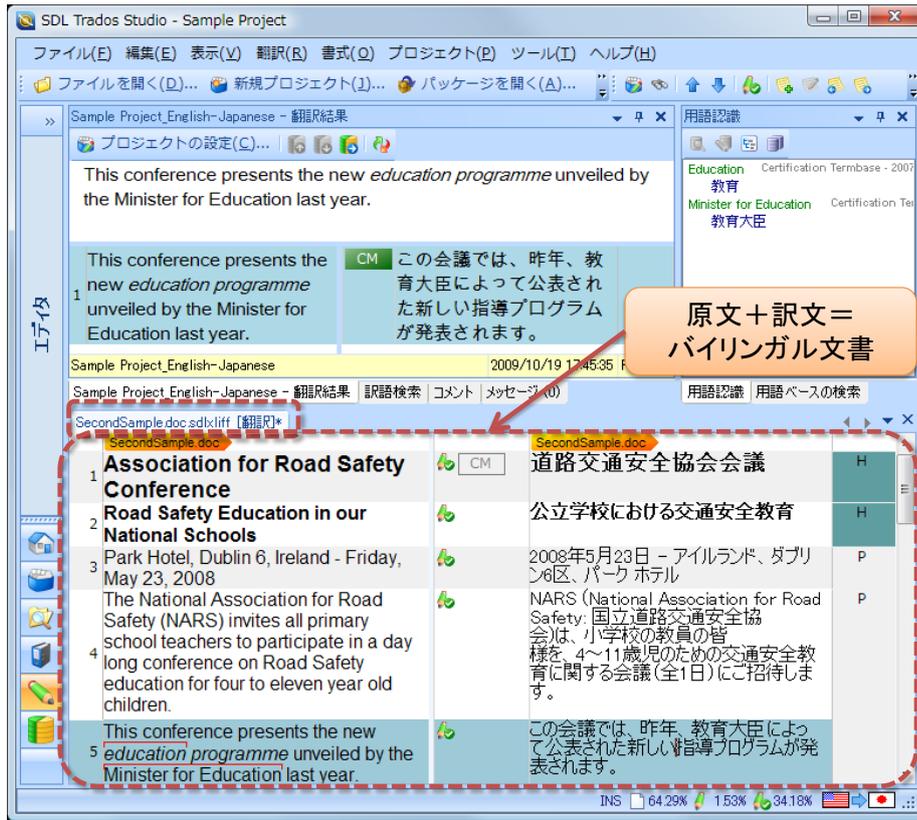
まず翻訳プロジェクトの枠組みを決め、設定をします。次に実際の翻訳作業を行いますが、この段階では、訳文をいきなり作るのではなく、次項でご説明する「バイリンガル文書」を作成します。原文と訳文のペア、つまり翻訳単位を含む文書を、**バイリンガル文書**と呼びます。最後に、バイリンガル文書から訳文を生成します。

## バイリンガル文書と「準備」タスク

Studio 2011 でファイルを開いて翻訳しても、原文のファイルそのものは変更されません。作業文書と同名で、拡張子が `sdlxliff` のバイリンガル文書ファイルが作られ、作業内容はそこに保存されます。たとえば原文 `Sample.htm` のバイリンガル文書は、`Sample.htm.sdlxliff` になります。Word、PowerPoint、HTML、XML などさまざまなファイル形式は、作業の過程ですべてバイリンガル文書に変換されます(15 ページの図 4 のファイル ビューも参照)。

ファイルを追加した後で、`sdlxliff` がまだできていないときに「準備」というタスク(操作)を実行することで、原文文書から `sdlxliff` のバイリンガル文書ファイルが生成されます。ファイル ビューで原文ファイル(複数選択可能)を右クリックし、[一括タスク]→[準備]を選択します。プロジェクトを新規作成したときにも、この工程がウィザードで指示されます。

図 5 バイリンガル文書



バイリンガル文書での翻訳作業が終了しても、訳文ファイルそのものができたわけではありません。バイリンガル文書には、上図のように原文一分節ずつに対して、対になる訳文が入っています。

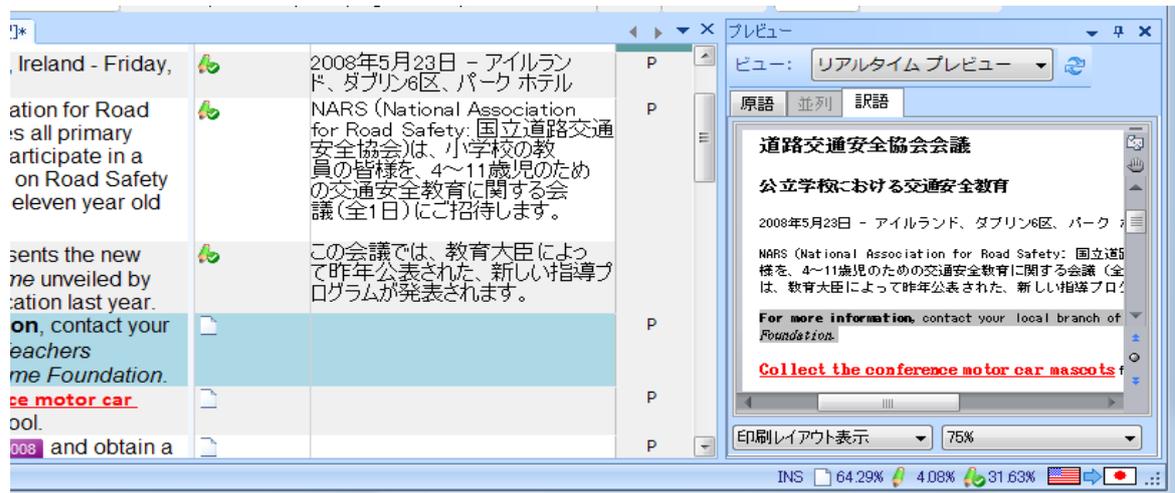
私たちが最終的に欲しいのは、訳文ファイルです。原文が HTML なら、訳文も HTML ファイルになります。ここで問題です。バイリンガル文書から訳文ファイルを作るにはどうしたらいいでしょうか。

答えはバイリンガル文書の中の原文をすべて消せばよいのです。つまり「バイリンガル文書 - 原文 = 訳文」のようになります。訳文ファイルはバイリンガル文書に基づいてほぼ自動的に作られます。この工程を、訳文の生成と呼びます。次項で詳しく説明します。



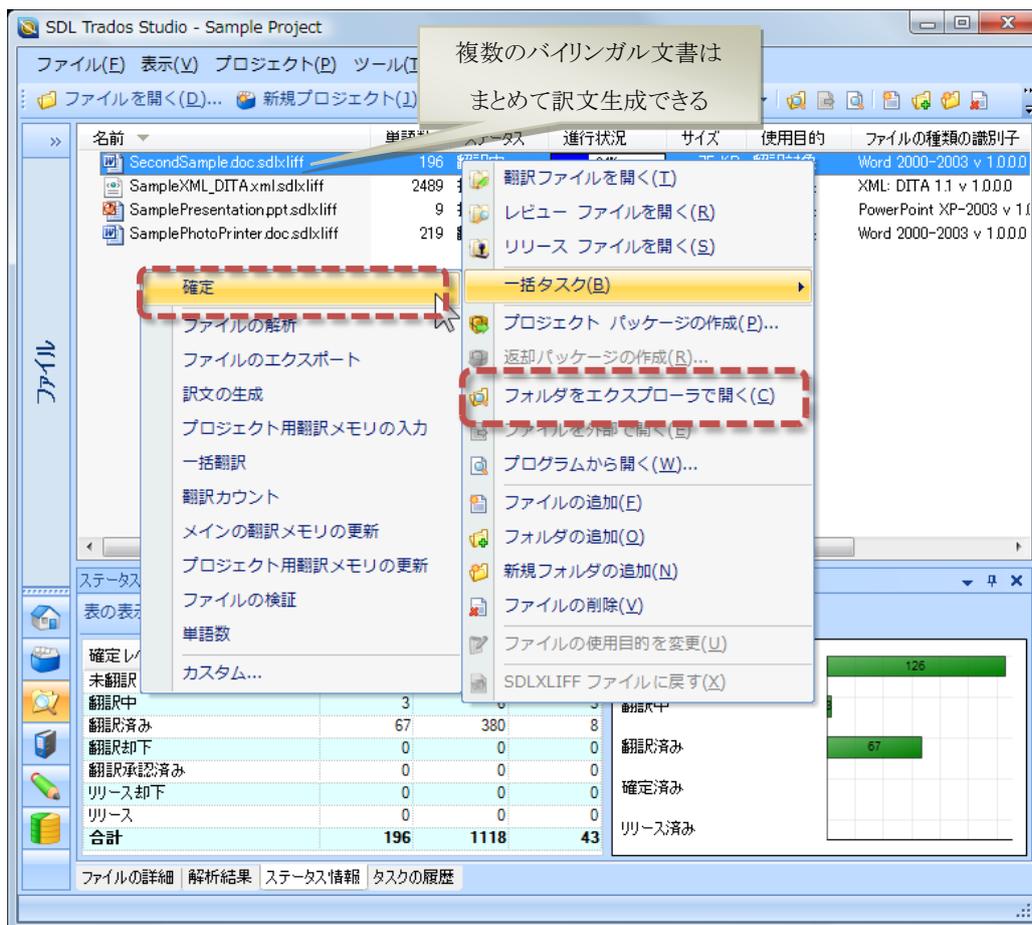
## ステップアップ・リアルタイム プレビュー表示

ファイル ビューでは、**プレビュー表示**して実際の書式やレイアウトをいつでも確認できます。特に Word 文書などでは、分節を確定するたびにプレビュー画面にその結果を反映する**リアルタイム プレビュー表示**が可能です。



原文を上書きして翻訳するときのように、書式やレイアウトを確認しながら翻訳することで、文脈に沿った、より適切な翻訳が可能になります。また、プレビューの画面は、切り離して好みの位置に配置できます。拡大・縮小表示したり、複数のモニタがあれば別のモニタに表示したりすることもできます。なお、プレビューだけでなく、Studio 2011 のその他の画面も、同じように自由に配置したり隠したりすることができます。

## 訳文の生成

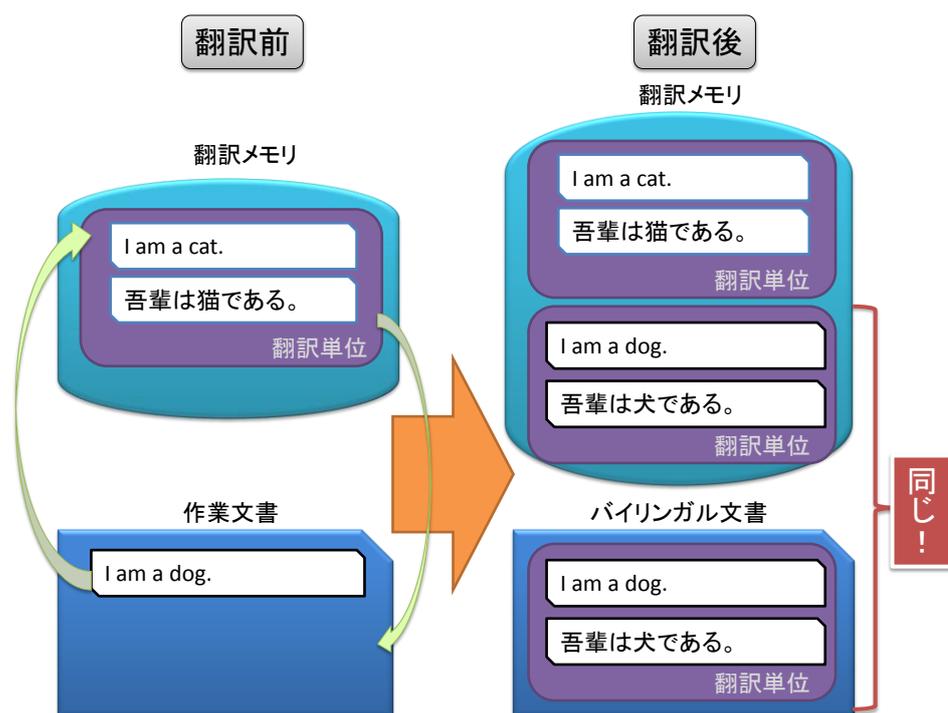


翻訳が済んだバイリンガル文書から、訳文を生成してみましょう。

1. 左のナビゲーション ペインで、ファイル ビューに切り替えます。
2. 訳文を生成する対象のバイリンガル文書を選択します(複数選択可能)。通常は、すべての翻訳対象文書を翻訳した後、つまり**翻訳の最終段階で訳文の生成**をします。
3. 右クリックして、[一括タスク]から[確定]を選択します。一括処理のウィザードが開始されるので、指示に従います。[確定]というタスクでは、実際には翻訳メモリの情報を更新し、訳文の生成をするという、2つの処理が行われます。翻訳メモリの更新については次章でご説明します。
4. これでバイリンガル文書 `SecondSample.doc.sdlxliff` から訳文 `SecondSample.doc` が生成されました。この文書をダブルクリックすると、訳文が開きます。またこの文書を右クリックして、メニューから[フォルダをエクスプローラで開く]を選択すると、訳文の Word 文書を含むフォルダが表示されます。

## バイリンガル文書と翻訳メモリの関係

翻訳メモリに新たに追加した翻訳単位と、バイリンガル文書に追加した翻訳単位は、同じものがそれぞれに追加されます(下図)。そのため、翻訳済みのバイリンガル文書があれば、そこから翻訳メモリを作ることができます。逆に翻訳済みの翻訳メモリがあれば、その翻訳済みの原文に関してはバイリンガル文書を作ることができます。翻訳作業が終了したときは、バイリンガル文書の内容すべてが翻訳メモリに含まれていなくてはなりません。通常は、作業文書を開くときは翻訳メモリも開いており、自動的に両方が更新されます。



**バイリンガル文書と翻訳メモリの内容を同期させる**といってもよいでしょう。これが実行されていれば、誤字があっても、翻訳メモリで集中的に修整してその変更を文書に反映させることで、その同じ箇所を含む**多数の文章を一度に修正**することができます。これもまた翻訳メモリを使う重要な理由の一つです。翻訳メモリとバイリンガル文書をバラバラに編集して、同期せずにそのままにしていると、共有して管理できる場がありません。誤字脱字などの同じ修正を、たくさんの文書でそれぞれ何度も繰り返す必要があります。ですから、翻訳メモリとバイリンガル文書のどちらかを直接修正した場合は、**内容を同期させる必要がある**わけです。文書の更新も、翻訳メモリの更新も、**翻訳メモリを経由して、変更されたすべての情報を共有する**のが目的です。

## 翻訳メモリの変更をバイリンガル文書に反映（文書の更新）

36 ページでご紹介しますが、翻訳メモリの内容は直接編集できます。翻訳メモリを直接編集した場合は、その変更をバイリンガル文書に反映させる必要があります。その場合は、以下のようにします。

1. 左のナビゲーション ペインで、ファイル ビューに切り替えます。
2. 変更を反映する対象のバイリンガル文書を選択します(複数選択可能)。
3. 右クリックして、[一括タスク]から[一括翻訳]を選択します。一括翻訳のウィザードが開始されます。
4. 「設定」の画面で[言語ペア]から該当する言語ペアを選び、「一括翻訳」をクリックします。
5. 「翻訳上書きモード」で、[常に既存の翻訳を上書きする]を選択し、[次へ]をクリックします。これで翻訳メモリでの変更が反映されます。

## バイリンガル文書の変更を翻訳メモリに反映（翻訳メモリの更新）

翻訳メモリを使わずにバイリンガル文書を直接編集して変更することもできます。その場合は、前項と逆に、編集した箇所を、翻訳メモリに反映させる必要があります。翻訳メモリの更新は、訳文を生成するときも行われます。

1. 左のナビゲーション ペインで、ファイル ビューに切り替えます。
2. 変更を加えたバイリンガル文書を選択します(複数選択可能)。
3. 右クリックして、[一括タスク]から[メインの翻訳メモリの更新]または[プロジェクト用翻訳メモリの更新]を選択します。ウィザードが開始されます。
4. 「設定」の画面で[言語ペア]から該当する言語ペアを選び、「翻訳メモリの更新」をクリックします。
5. 設定を確認し、[次へ]をクリックします。これで翻訳メモリでの変更が反映されます。

### まとめ

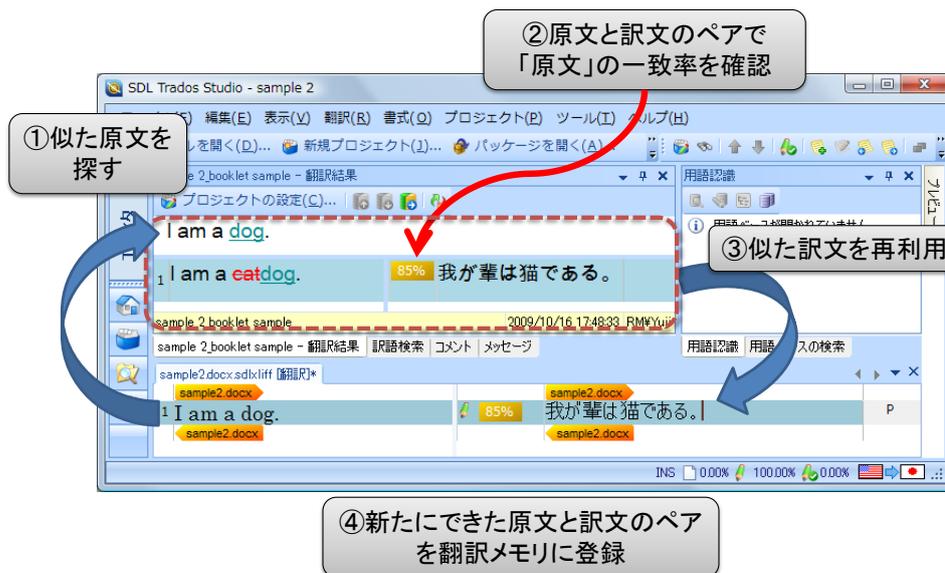
- 事前にプロジェクトを準備する
- 「バイリンガル文書－原文＝訳文」で訳文を生成する
- バイリンガル文書と翻訳メモリの一方を変更したら、内容を同期させる

# 8. エディタ ビュー1

## エディタでの翻訳作業の流れ

エディタ ビューでは、翻訳作業そのものを行います。以下の図は、エディタ ビューでの翻訳作業の流れを示したものです。図 1(7 ページ)の模式図と比べてみてください。

図 6 エディタ ビュー



基本的な翻訳作業の流れは、以下のようになります。

- ① 似た原文を探す
- ② 原文と訳文のペアで「原文」の一致率を確認する
- ③ 似た訳文を再利用
- ④ 新たにできた原文と訳文のペアを翻訳メモリに登録

## ファイルを開く

以下では、実際の翻訳作業の工程をなぞってみます。ここではすでにある翻訳メモリを利用して、実際の作業の例をお見せします。製品版や体験版をお持ちの場合、SDL Trados Studio 2011 に付属するサンプルのプロジェクトを使って実際に試せます。

- ① [ホーム]ビューで[サンプル プロジェクトを開く]をクリックします。
- ② 自動的にプロジェクト ビューに切り替わります。
- ③ ファイル ビューに切り替えます。

④ 左上の言語選択リストから、**訳文言語である日本語を選択します**。この手順は忘れがちなので注意してください。

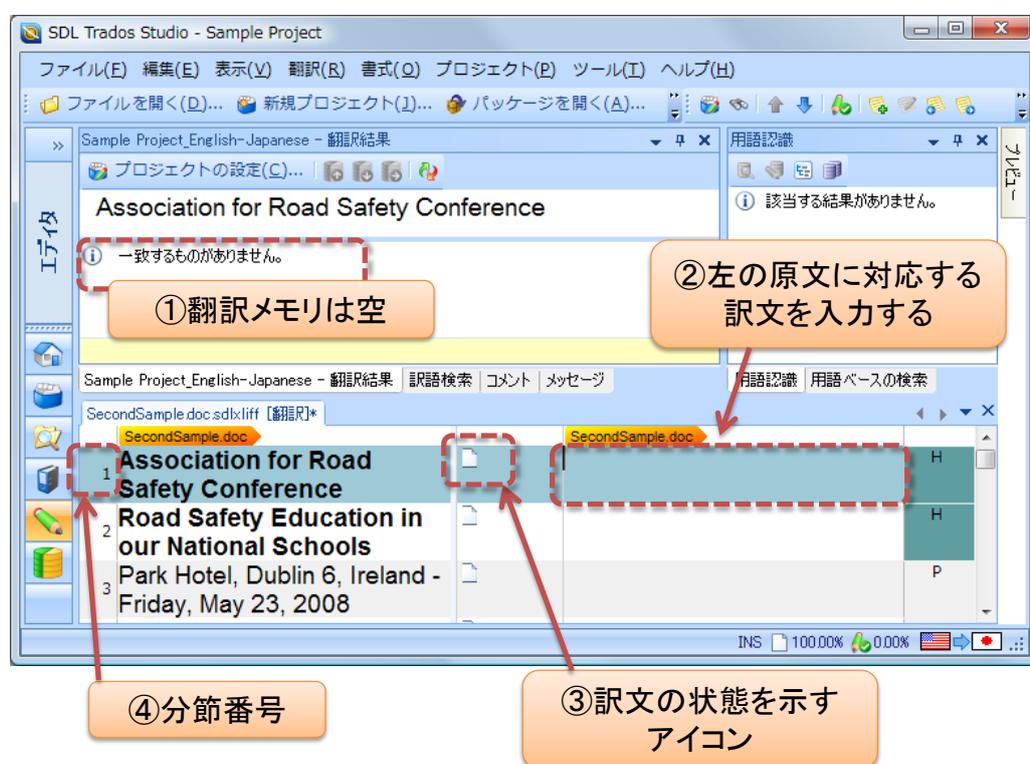
⑤ SecondSample.doc.sdlxliff をダブルクリックすると、自動的にエディタ ビューに切り替わります。

これは SecondSample.doc という Microsoft Word 2003 以前の形式の原文文書を、原文分節に対応する訳文分節もそれぞれ記録できるように変換した**バイリンガル文書**(17 ページを参照)です。

SDL Trados では、原文文書そのものを上書き翻訳するのではなく、原文から変換したバイリンガル文書に対して翻訳作業を行います。

⑥ これで、翻訳するファイルが開き、翻訳する準備が整いました。

図 7 エディタ ビューでの翻訳



## 実際に翻訳してみよう

さて、いよいよ実際に翻訳してみましょう。翻訳メモリも空の状態なので、図 7 の①では、「一致するものはありません」と表示されています。

① 画面下の"Association for Road Safety Conference"の右側の、訳文を入力する領域をクリックします(②)。

② ここで、訳文として「道路交通安全協会会議」と入力します。原文と訳文のあいだにある  (未翻訳)

アイコン(③)が (編集)アイコンに変わります。これらのアイコンは訳文のステータス(状態)を示します。

③ これで、この文の翻訳が完了したとします。ツールバーの (確定(翻訳済み))ボタンをクリックします(Ctrl+Enter でも同じ操作ができます)。

④ これで、編集した**訳文が確定され**、翻訳メモリにも登録されました。 (確定(翻訳済み))ボタンをクリックするまで、翻訳メモリには登録されない点に注意してください。確認したい用語がまだ残っている場合など、 (確定(翻訳済み))ボタンをクリックせずに、他の文の翻訳をすることもできます。しかし、最終的にはすべての訳文分節に対して、 (確定(翻訳済み))ボタンで確定をします。

### 100%一致の場合

同じようにして、分節番号 9～11 を、以下のように翻訳して、確定します。



分節番号 9～11 のそれぞれの訳文を確定すると、あとで出てきた分節番号 29～31 の同じ原文に対して、自動的に訳文が挿入(反映)されました。これは**自動反映**と呼ばれる機能です。今度はステータス アイコンの横に 100%と表示されています(図 7)。つまりこれは 100%一致する翻訳を過去にしているということです。まったく同じ訳文があるのですから、そのまま再利用されたわけです。太字などの書式も反映されています。

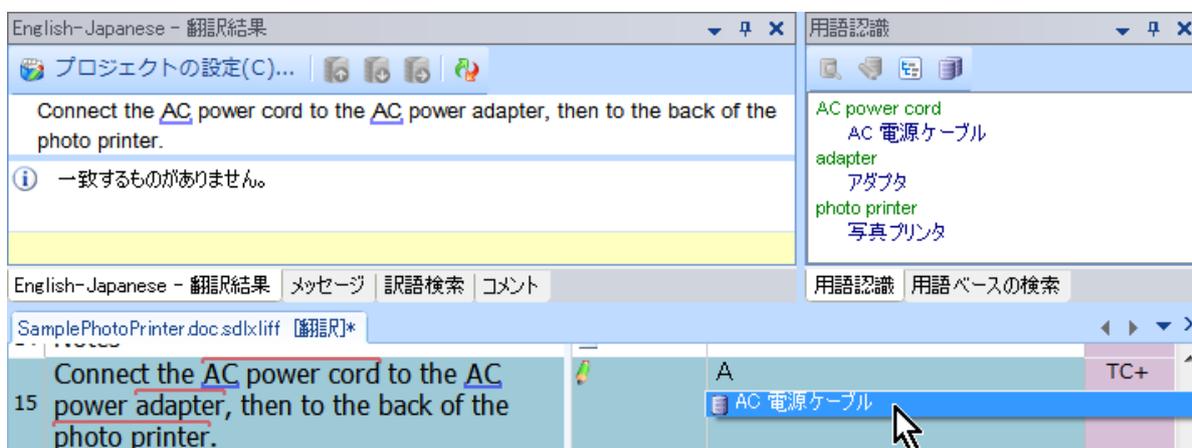
このように、翻訳メモリ ツールは、過去に翻訳された結果がある場合は、新たに翻訳をしなくても、過去の訳文をそのまま再利用できます。**過去の訳文を再利用することで、何度もゼロから翻訳し直すよりは、ずっと効率的に翻訳できる**ことがお分かりいただけたと思います。以上が、SDL TRADOS の最も基本的な翻訳編集の操作です。

## AutoSuggest 機能

AutoSuggest 機能は、翻訳を支援する機能です。携帯電話や、一部の日本語入力システムで使われている、推測変換機能と似ています。日英翻訳や、フランス語・英語などのヨーロッパ言語間の翻訳では、一定量の既訳のデータから AutoSuggest 辞書を事前に作成することで、最初の 1 文字を入力するだけで、訳文で使える入力候補を出してくれます。入力候補は、元になるデータを解析して、訳文としてもっとも近いものが示されます。

26

AutoSuggest 辞書以外に、用語ベース(用語集)も AutoSuggest のデータ元になります。英日翻訳では、AutoSuggest 辞書は使えませんが、用語ベースが使えます。通常、用語認識で、用語として使える単語があれば、Ctrl+Shift+L のショートカット キーで、用語のリストをいったん表示してから目的の用語を選びます。この場合、1 文に多数の用語が含まれる場合は、選択に手間がかかることがあります。AutoSuggest 機能をオンにしていれば、用語ベースのデータを参照することで、最初の 1 文字を入力するだけで、訳語の候補が出るので、選択する手間が省け、すばやく入力できます。英日では、"Web site"、"XML converter"のような原語に対して、アルファベットで始まる「Web サイト」「XML 変換ツール」のような用語が用語ベースに含まれていれば、訳語の入力候補として示されます。



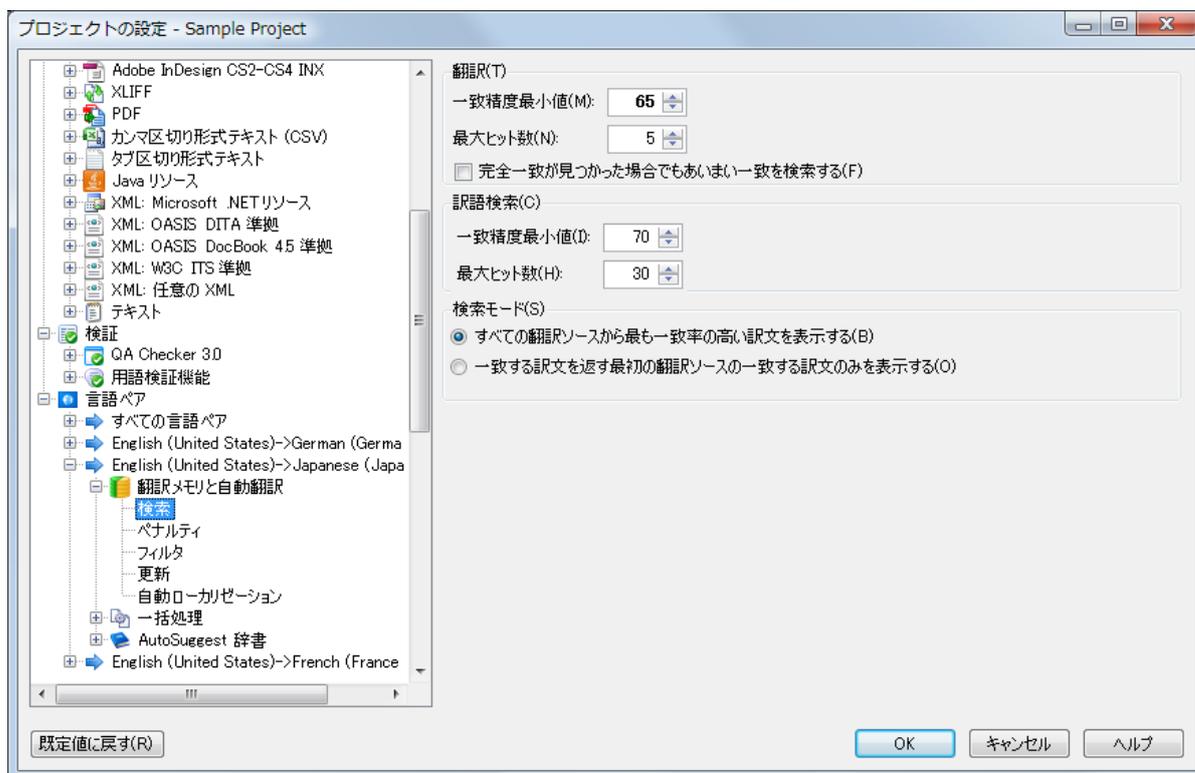
大文字小文字も用語に一致する必要があります。上図では、"a"ではなく、"A"と 1 文字入力することで、「AC 電源ケーブル」が入力候補として示されています。日本語から始まる「コンテンツ」「環境」のような用語は入力候補として示されないので注意してください。また、文の途中で AutoSuggest を機能させるには、「これは AC 電源ケーブル……」のように日本語の直後に続けてではなく、半角スペースを 1 つ入れた後で、「これは△AC 電源ケーブル……」のようにする必要があります(△は半角スペースを示します)。

## 9. エディタ ビュー 2

### 一致率の設定

訳文を再利用するとき、役立つのは「まったく同じか、ほとんど同じ文」です。あまり似ていない文は参考としては役立ちますが、直接再利用できません。どれだけ似ていれば利用価値があるか、という一致率の精度はプロジェクトの設定から設定することができます。エディタ ビューで[プロジェクトの設定]をクリックして、「言語ペア」→「English (United States)-> Japanese (Japan)」→「検索」とクリックすると以下の画面になります。

27



ここで一致精度最小値を 70 から、たとえば 65 に下げると、「似たもの」とみなす範囲が広がり、100%(まったく同じ)から 65%のあいだで似ている分節を再利用できるとして、検索するようになります。この値より一致率が低い分節は、「一致した」とみなされません。どの程度似ているかの指標はいくつかありますが、すべて数字に置き換えて計算されます。一致率は調整できますが、特に必要でなければ、そのままかまいません。

### 語句の変更

翻訳メモリを使うと、過去に似た翻訳をしていれば、わずかな変更だけで、**文全体を再度翻訳せずに見ます**。以下では、語句を変更する例を示します。

エディタ ビューで、最小一致率を 65%にしたまま、以前に使ったサンプル SecondSample.doc.sdlxliff

の、分節番号 28 の訳文領域をクリックします。すると以下のようになります。



各欄についてご説明します。まず、「① 翻訳対象の原文」は上部の「① 翻訳対象の原文」と同じ文です。

この「① 翻訳対象の原文」が翻訳メモリで検索されました。その下の「② メモリ内の原文」と「③ メモリ内の訳文」

は、その検索の結果見つかったペアです。比較しやすいように、上下並べて表示されているわけです。

一致率が、「67%」と表示されています。一致率の黄土色は、100%一致ではないことを示します。この訳文は、あくまでも「似た訳文」であり、正しい訳文そのものではありません。翻訳中の原文と翻訳メモリ内の原文を比較して、どこが違うのかを知る必要があります。次に、その違いに応じて、コピーされた訳文を修正し、正しい訳文にする必要があります。

原文「Association for Road Safety - Conference Day 2」と 67%一致した「Association for Road Safety Conference」という原文を以前に翻訳しているので、その訳文である「道路交通安全協会会議」が翻訳メモリから取得されたわけです。ただし、これはかなり似てはいますが、同じではありません。どこが違うのでしょうか。ハイフンと Day 2 が青緑の下線と文字で示されています。これは、追加された文字列を示します。今、訳している原文にはハイフンと Day 2 が加わっているので、これを翻訳して付け加える必要があるわけです。この文脈では、ハイフンは不要とみなせます。むしろ位置をずらして「道路交通安全協会会議」の次にハイフンを入れ、「2 日め」という語を追加します。最終的な訳文は「道路交通安全協会会議 - 2 日め」となります。このように、翻訳メモリでは、訳文を再利用し、語句を修正するだけで、翻訳の手間を省くことができます。

## 語句の削除

次の例を見てみましょう(この例では、サンプル翻訳メモリにあらかじめ他の翻訳単位を追加しています。製品に付属のサンプルでは、以下と同じ結果にはなりません)。

| Road Safety Education in our National Schools                |  |                         |
|--|--|-------------------------|
| 1  | Road Safety Education <del>programme</del> in our National Schools | 91% 公立学校における交通安全教育プログラム |
| Sample Project_English-Japanese                              |  | 2009/10/20 23:01:07     |
| Sample Project_English-Japanese - 翻訳結果   訳語検索   コメント   メッセージ |  |                         |
| SecondSample.doc.sdlxliff [翻訳]*                              |  |                         |
| 2  | Road Safety Education in our National Schools                      | 公立学校における交通安全教育          |

ここでは、一致率は91%です。今訳している原文" Road Safety Education in our National Schools " に対して、"Road Safety Education ~~programme~~ in our National Schools "という翻訳メモリからの原文が示されています。この文には、今訳している原文にはない ~~programme~~ という語がありますが、赤の打ち消し線で示されています。これは、「この語の訳語を削除すれば、あとは訳文を再利用できますよ」ということです。  
~~programme~~ に相当する訳語は「プログラム」ですので、上図のように削除します。これだけで、「公立学校における交通安全教育」という訳文がしっかり再利用できました。

## 訳語検索

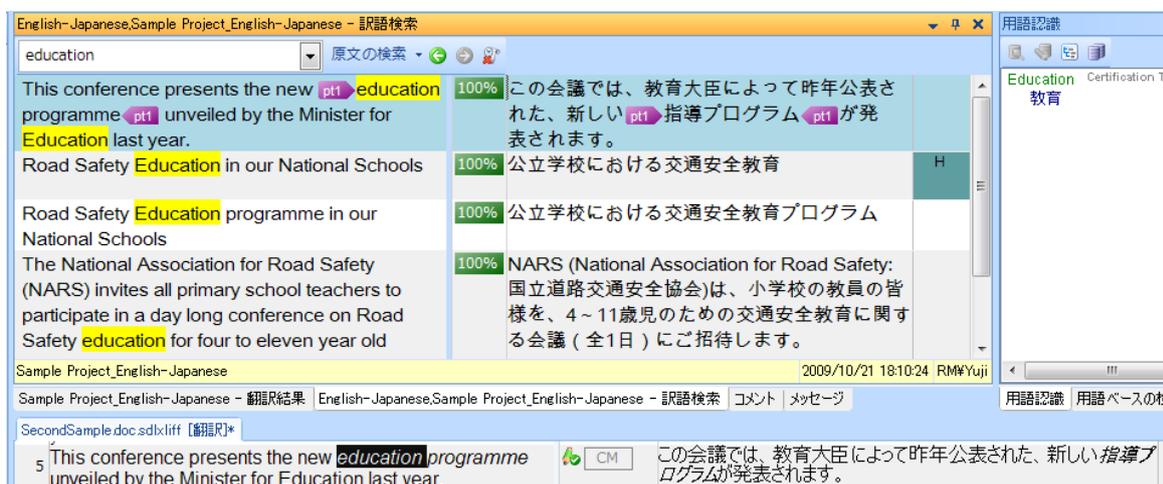
訳語検索機能を使えば、翻訳メモリ内の、すでに訳した翻訳を確認したり再利用したりすることができます。

複数翻訳者がチームとして翻訳する場合、ある訳語が、これまでの翻訳でどのように訳されてきたかを確認し、訳語を統一することは、非常に重要です。どう訳していいか迷ったら訳語検索をすればいいわけです。

訳語検索をするには、編集画面で、たとえば次の原文の **education** という語を選択して、キーボードの上の列にある F3 キー (ファンクションキーの 3) を押します。

This conference presents the new **education** programme unveiled by the Minister for Education last year.

その結果、実際の画面では、以下のようになります。



「Sample Project\_English-Japanese - 翻訳結果」が「Sample Project\_English-Japanese - 訳語検索」というタブに自動的に切り替わり、翻訳メモリ内の **education** という原語を含むすべての分節が検索されました。**education** は、黄色で強調表示されています。原文に対応する訳文を確認すると、**education** の訳語としては、「教育」以外に「指導」が以前に使われていることが確認できます。

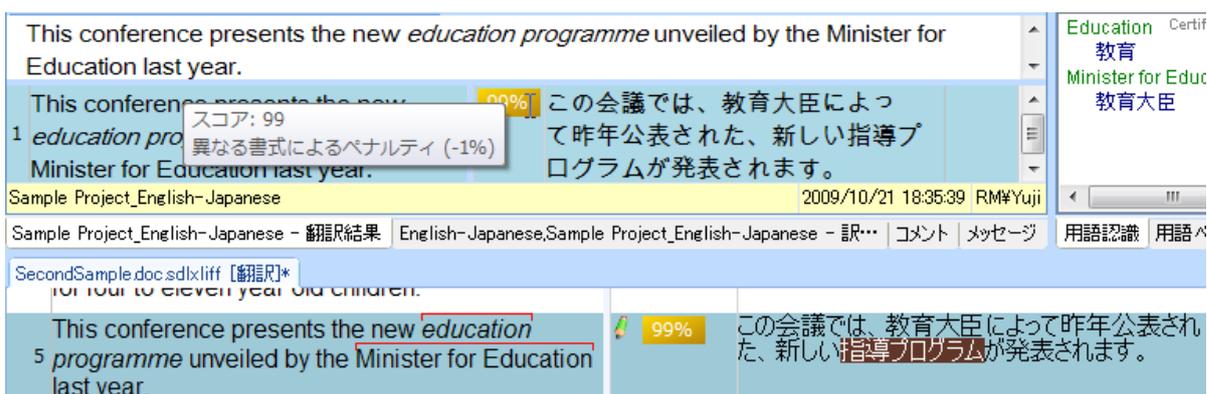
ここでは原語を検索しましたが、訳語を検索することもできます。たとえば、「指導」という語がその他の分節で使われているか確認したければ、訳文の「指導」という語を選択して F3 キーを押します。翻訳メモリ内の「指導」という訳語を含むすべての分節が検索されます。

訳語検索は、「翻訳メモリ内の検索」であることに注意してください。翻訳中の「文書」に対して、検索や置換を行うこともできます。

## 書式の違い（ペナルティ）

翻訳メモリを使う場合、既訳との違いは数字に置き換えて計算されます。いくつかの「違い」は、**ペナルティ**という数字で表され、一致率から差し引かれます。

翻訳メモリを使えば、太字などの書式が異なる文でも、書式の違いを意識せず、訳文のテキストだけに着目して再利用することができます。次の例を見てみましょう（この例では、サンプル翻訳メモリにあらかじめ他の翻訳単位を追加しています。製品に付属のサンプルでは、以下と同じ結果にはなりません）。



The screenshot displays a translation software interface. The main window shows a comparison between two versions of a sentence. The top version is the original text: "This conference presents the new *education programme* unveiled by the Minister for Education last year." The bottom version is the translated text: "この会議では、教育大臣によって昨年公表された、新しい指導プログラムが発表されます。" A tooltip shows a score of 99% and a penalty of -1% due to the font difference. A sidebar on the right shows a glossary for "Education" with terms like "教育", "Minister for Education", and "教育大臣".

ここでは、以前に訳して、メモリ内にある既訳の分節では、*education programme* のように斜体になっていません。しかし、今訳している作業文書の原文では *education programme* のように斜体の書式が設定されています。文字列だけを比較すると 100%一致ですが、この書式の違いがあるために、「以前とは少し違いますよ」ということを示すため、1%だけ一致率が下げられています。一致率の数字の上にマウスを移動すると、「異なる書式によるペナルティ」という理由が表示されます。このようにわずかな違いでも翻訳者がそのつど確認する必要がある場合は、一致率が下げられることがあります。これを**ペナルティ**と呼びます。

書式その他、同一の原文に対して、訳文が複数存在する場合などもペナルティによる一致率が下げられます。どの場合にどれだけ一致率をペナルティとして下げるかはオプションで指定できます。個人翻訳者の方の場合は、翻訳会社などから指定されることがありますので、必要でない場合はそのまま変更しないでください。

このように、翻訳メモリを使えば、書式の違いに関係なく、訳文を再利用できます。これは同じ内容の文章が、Word、PowerPoint、HTML などさまざまな形式にあわせて微調整されていても再利用できるということでもあります。



## 変更履歴

Studio 2011 から、変更履歴の機能が使えるようになりました。Studio 2011 の変更履歴機能は、Microsoft Word の変更履歴機能と同じように機能します。つまり、**だれがどこをどう修正したか、すべて自動的に記録**されます。これは、主に翻訳を確認するレビュー作業で使います。Studio 2009 以前では、翻訳者がした翻訳を、レビューアーがレビューするとき、修正をしても、だれがどこをどう修正したかは分かりませんでした。翻訳に問題があっても、翻訳者は、なにが悪かったのか知るすべがありません。同じ間違いを繰り返し、レビューアーがそのたびに直すという作業を繰り返すこととなります。コメントは付けられましたが、「education の訳語を『指導』から『教育』に修正しました」などと一つ一つ書いていくのは大変です。

翻訳のレビューを行うには、ファイル ビューで、ファイルを右クリックして、[レビュー用に開く]を選択します。下図のように、エディタ ビューでレビュー用に文書が開きます。レビュー用に開くと、翻訳用の場合と異なり、翻訳メモリは画面下に表示されます。



「指導プログラム」という語を斜体のタグごと削除します。すると、削除したことは、~~指導プログラム~~のように、赤字の打ち消し線で示されます。続けて、「教育プログラム」という語を代わりに挿入します。これは、教育プログラムのように、青緑の字と下線で示されます。ポインタを変更箇所の上に置くと、ユーザー yuji が 2011/12/26 23:47:16 に挿入した、という情報が表示されます。こうすれば、どこに問題があり、だれがどう修正したかを記録に残すことができます。必要に応じて翻訳者にフィードバックすれば、翻訳者は同じ間違いを繰り返さずに済みます。結果的に、レビューアーの修正する問題点も減ることになります。

変更履歴は、既定では、レビューとリリース時に使うことが想定されています。発注元がリリース前の確認をするときも、上記のレビュー時と同様に変更履歴を使えます。必要であれば、翻訳時に有効にすることもできますが、通常は、翻訳者自身が自分で修正する場合は、そのことを記録する必要はありません。

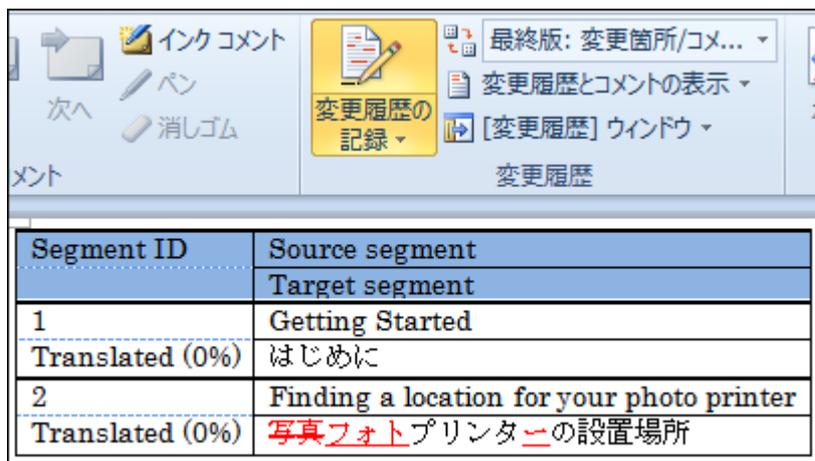
## Word によるレビュー

前述のようなレビューの工程は、Studio 2011 を使わずに Word でできます。つまり、Studio 2011 は持っていないが Word なら持っているレビューアーに、レビュー作業を依頼できます。この場合、SDL XLIFF Converter for Microsoft Office (以下 Converter) というツールを使います。このツールは、[スタート]メニュー→[すべてのプログラム]→[SDL]→[SDL Trados Studio 2011]→[OpenExchange Apps]から起動します。

Converter は、以下のように sdlxliiff 文書を Word 文書(docx 形式)に変換し、Word でレビューできるようにします。レビューが終われば、再度、Converter で Word 文書を sdlxliiff 文書に戻します。



PowerPoint の sdlxliiff 文書を、Converter で変換した Word 文書を Word で開くと下図のようになります。**sdlxliiff 文書の前になる文書は、Word 形式でなくてもよい**ことに注意してください。ここでレビューアーが、(Studio ではなく)**Word の変更履歴機能**を使って、「写真」を「フォト」に変更して、長音記号「ー」を挿入します。Word で変更履歴をオンにするには、ショートカット キーCtrl+Shift+Eを使うと便利です。



ここでは、変換するとき、原文と訳文を上下に表示するように設定していますが、Converter のオプションで、Studio と同じように原文と訳文を左右に並べて表示することもできます。

再度、Converter で Word 文書を sdlxiff 形式に戻して、Studio で開くと以下ようになります。



Word で行ったレビューによる修正の変更履歴が反映されています。Studio 自体でレビューをしたときと同様に、ユーザーと変更の日時も記録されています。ここでユーザーとして表示されている"YAMAMOTO Yuji"は、Trados ではなく、Word で設定されているユーザー名です。ユーザー名を区別する場合、Word のオプションでユーザー名を設定する必要があります。

## まとめ

- 語句の変更・追加・入れ替えなど、不一致部分は色で分かる
- 書式の違いがあっても、訳文を再利用できる
- 変更履歴で、だれがどこをどう修正したか記録できる

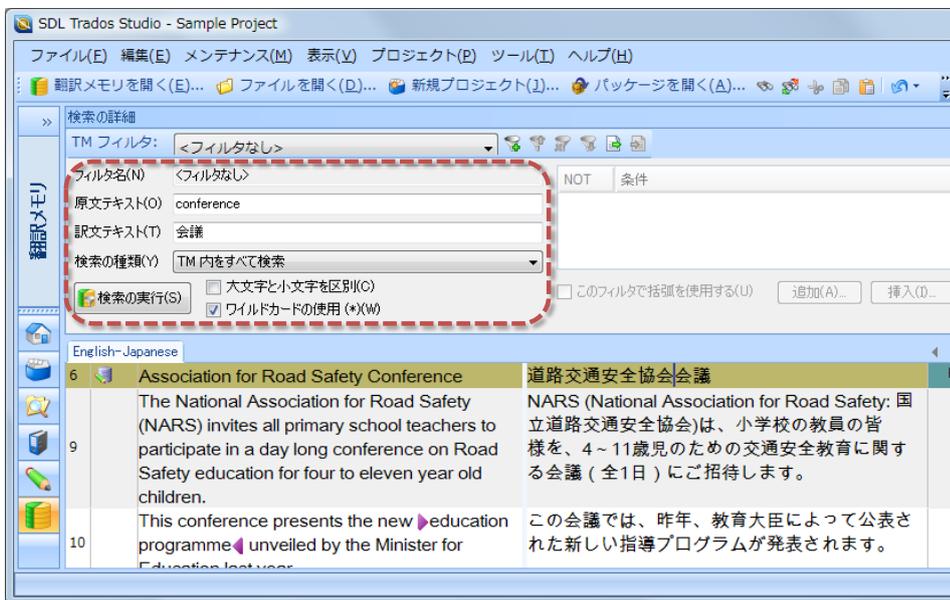
# 10. 翻訳メモリ ビュー

## 翻訳メモリの編集

次に翻訳メモリ ビューについて見てみましょう。たとえば、ある日、会社の方針で、ある単語の訳語が急に変更されたとしましょう。この場合は、一つ一つ文書を開いて修正作業するものではありません。このような場合、

**翻訳メモリをまとめて修正**します。翻訳メモリの内容を直接、参照・編集する場合は、翻訳メモリ ビューを使います。

図 8 翻訳メモリ ビュー



翻訳メモリを開くと、バイリンガル文書と同様に、翻訳単位の内容が表示され、直接編集もできます。

## 原文・訳文の検索

翻訳メモリの中には数千から数万の文が入っているので、順番に一つずつ見てゆくよりは、特定の語句を検索して、目的の文を探すのが一般的です。また、翻訳作業では多くの場合、1文ずつ修正するより、多数の文を一括して修正する必要があります。

翻訳メモリ ビューでは、原文のみ、訳文のみ、また原文と訳文の両方に条件を設定しての検索が行えます。

たとえば原文に"conference"という語が含まれる文を探したい場合は、[原文テキスト]に"conference"と入力して、[検索の実行]をクリックします。

原文に"conference"、訳文に「会議」という語が含まれる文を探したい場合は、[原文テキスト]に

"conference"と入力し、[訳文テキスト]に「会議」と入力して、[検索の実行]をクリックします。

必要に応じて、フィルタで条件を細かく設定して検索することもできます。

## 一括編集と一括削除

[ファイル]メニューの[一括編集]と[一括削除]を使えば、翻訳単位をまとめて編集・削除することができます。たとえば、どのような場合に使うのでしょうか。訳語が決定していない場合に、★マークなどの記号をあらかじめ決めて、マークしておく、という方法は翻訳作業でよく使われます。訳語が決定してから、検索機能で★マークなどの記号を探し、翻訳メモリのすべてに対して、正しい訳語に一括で置換することができます。最後に、22 ページのように、バイリンガル文書にその変化を反映させることができます。

翻訳メモリに対して一括置換処理を行うときはくれぐれも慎重に行ってください。一括して多くの箇所を書き換えるので、誤った操作を行うと、修正の手間が増えることがあります。大きな変更を行う前には、翻訳メモリのバックアップをとることをお勧めします。翻訳メモリをいったん閉じて、翻訳メモリ `sdltm` ファイルを別の名前でもコピーしておくのが簡単です。翻訳メモリの内容をエクスポートするという方法もあります。

もし間違えて編集をしてしまった場合は、作成者や作成時間で条件を絞り込んで、間違えた箇所を探し出すことができます。

### ステップアップ・ショートカットを覚えよう

翻訳の作業は文字入力を中心となります。そのためマウスで操作するよりもキーボードを使うことが多くなります。SDL TRADOS では、マウスで操作する代わりに、ほとんどの操作をショートカット キーで行うことができます。何度も繰り返し行う操作が多いので、ショートカット キーを覚えるとすばやく作業できます。

ショートカット キーは意識して覚えないと身に付けることができません。ショートカット キーは、次図のようにメニューに表示されています(その時点では実行できないコマンドは灰色になっています)。ショートカット キーを忘れたら、いつでもここから確認できます。



訳語検索の項(30 ページ)でもご紹介しましたが、たとえば訳語検索のショートカット キーは、キーボードの上の列にある F3、ファンクションキーの 3 です(上図にも示されています)。非常に重要な機能ですので、このショートカット キーは必ず覚えることをお勧めします。

ショートカットは一気に覚えようとせず、これまでツールバーのボタンを使っていた操作の代わりに一つずつ覚えていけばよいでしょう。ショートカット キーの組み合わせには一定の法則性がありますので、慣れれば楽に覚えられるはずです。また、自分で使いやすいショートカット キーを自由に割り当てることもできます。これは[ツール]メニュー→[オプション]の「ショートカット キー」から行えます。

## まとめ

- 翻訳メモリの内容を直接、参照・編集する場合は、翻訳メモリ ビューを使う
- 少しずつショートカット キーを覚えよう

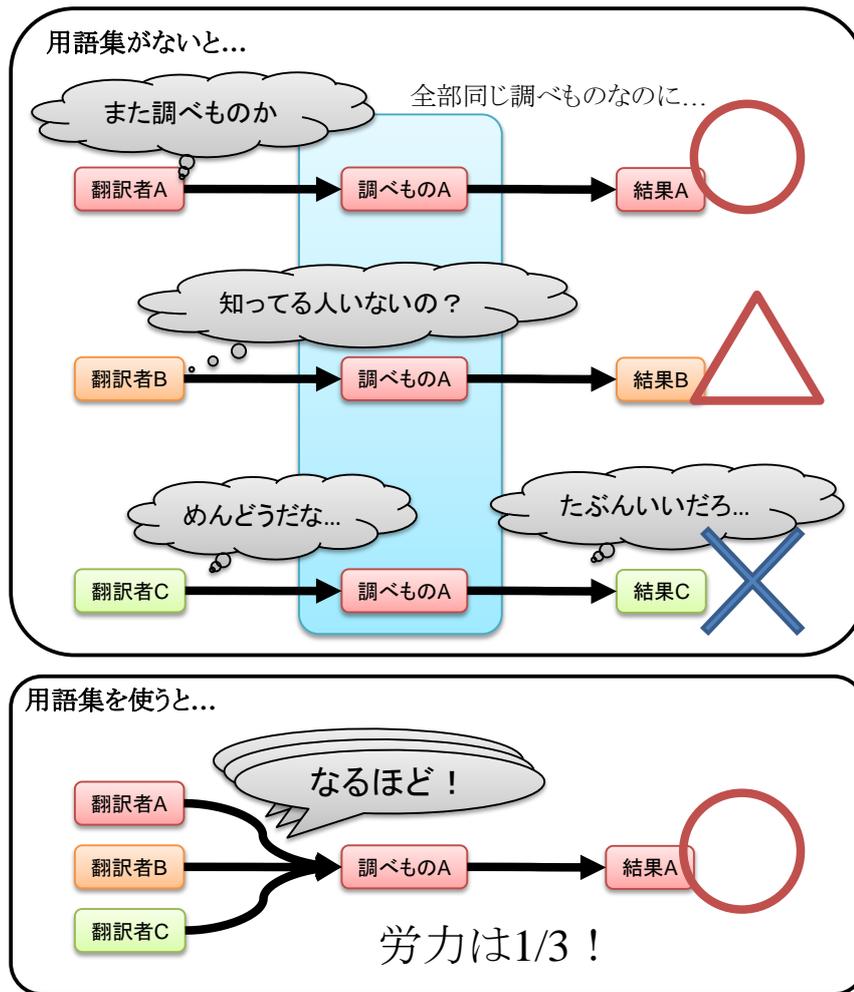
# 11. 用語管理ツール MultiTerm

## 用語集の重要性

この章では、用語集と、SDL TRADOS に含まれる用語管理ツール MultiTerm についてご紹介します。

まず翻訳での用語集の重要性についてです。翻訳作業で用語集がなぜ重要なのでしょうか。

図 9 用語集の有無で大きな違いが……



翻訳者 A が、ある訳語など、調べもの A という作業をします(上図)。ひとりで翻訳する場合はこれでもいいでしょう。しかし、実際の実務翻訳では複数の翻訳者が同時に作業することは珍しくありません。この場合は、同じ翻訳プロジェクトで翻訳者 B が翻訳している場合、同じ調べもの A をまたすることになります。またその結果、結果の訳語が翻訳者 A とは微妙に違うことがあります。さらに翻訳者 C が同時に作業すると、また同じ調べもの A をすることになります。しかもこの翻訳者の場合は、調査の技術が不足していて、誤った訳語を選んでしまいました。このような場合、同じ調べものを別々の翻訳者がするために翻訳作業の効率は悪く、

しかもできあがった翻訳では、訳語がバラバラで、誤訳が含まれる結果になってしまいました。

用語集がある場合はどうでしょうか。用語集があれば、複数の翻訳者がいても、訳語を統一できます。また効率的に作業できて、誤訳や勘違いを防ぐことができます。

一定以上の規模での実務翻訳のプロジェクトでは、「用語集」が非常に重要になってきます。ひとりで翻訳する場合でも、訳語の統一をするために用語集は必要ですが、特に、複数の翻訳者からなるチームで翻訳が行われる場合には必須です。用語集がしっかりしていないと、混乱が起き、その翻訳プロジェクトにかかわる人間全員が困ることになります。たとえ問題が表面化していなくても、潜在的な問題が隠れていたり、知らない間に作業効率が下がっていたりすることもあります。

具体的な例として、この文を翻訳した場合を考えてみましょう。

「For each target language in a project, there are different report types available, such as file analysis, pre-translation, SDL PerfectMatch and more. 」

ここに出てくる target language、file analysis、pre-translation といった単語はすべて専門用語で、ど  
う訳すか決まっています。しかし、どうやって確認すればいいのでしょうか？

用語集なしで翻訳した場合、翻訳者はこのような用語をそのつど手作業で確認する必要があり、翻訳の効率が落ちます。たった 1 文を翻訳するのに、場合によっては十数分も費やして、翻訳メモリで過去訳を検索し、辞書を確認し、資料の PDF を検索し、さらにはインターネットの資料を検索して、適切な用語か確認しなくてはならないこともあります。

## 用語集がないとチェックのコストがかさむ

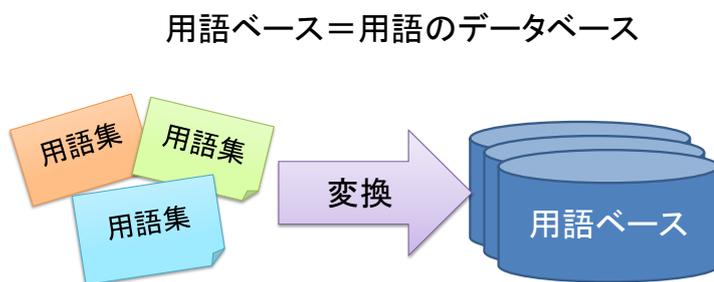
良心的な翻訳者はきちんと調べようとしますが、いつもきちんとした用語が適用されているとはかぎりません。翻訳会社にとっては、できあがった翻訳をチェックするのに、それぞれの翻訳者が別の訳語をあてていることが分かった場合、確認して修正するのが大変です。このような非効率的な方法では、ミスをなくすことは困難です。そのソフトのユーザー、つまり翻訳された文章を読む人間にとっても大問題です。バラバラな訳語が使われていると、いったい何のことを言っているのか分かりません。結局は、翻訳の読み手、つまりユーザーから、翻訳を依頼したクライアント企業にクレームが行くこととなります。また、クライアント企業がサポートで対応しようにも、訳語が統一されていないと対応に行き違いが出るでしょう。実際に、重要な誤訳が放置されていることもしばしばあります。用語集を作らずに放置しておく、翻訳の品質と効率に重大な影響が出ます。用語集は

「あればいいもの」といったものではなく、適切な翻訳には非常に重要なものです。**きちんとした用語集を作るのは、翻訳の基本**です。

用語集は、専門用語が多い場合には非常に有効です。数千から数万語の用語がある場合に、用語適用を手作業だけで行うのは現実的ではありません。しかし、専用の用語管理ツールを正しく使用すれば、翻訳者の手間は劇的に減らすことができます。

## 用語管理ツール MultiTerm

図 10 用語集→用語ベース



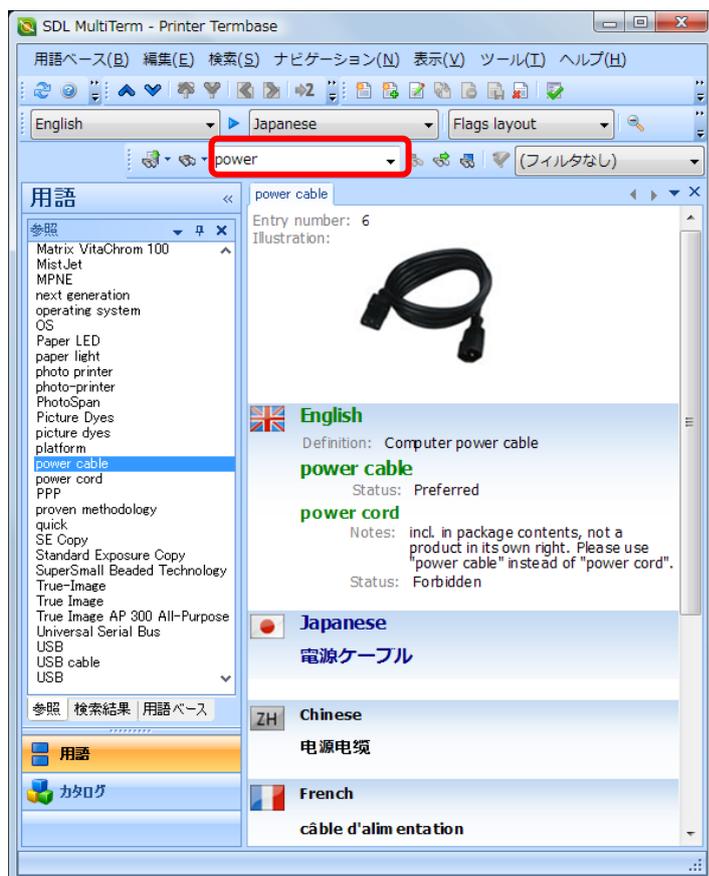
SDL TRADOS には、用語管理ツール MultiTerm が付属しています。MultiTerm は、**用語ベース**と呼ばれる用語集のデータベースを管理します。用語ベースは、単語単位のデータベースです。ちなみに、ここで復習すると、翻訳メモリは「原文と訳文のペア」、つまり文単位のデータベースのことでした。

用語集といっても、実際にはテキストや Excel などさまざまな形式があります。それらを簡単な操作で用語ベースに変換することで、MultiTerm に取り込み、集中して検索できるようにします(図 10)。

MultiTerm では複数の用語ベースを一度に検索することができます。たとえば、医療機器の翻訳では、医学用語、機械用語、製品固有の用語などの用語集を使う必要があります。MultiTerm は、単体で、または Studio 2011 と組み合わせて使うことができます。

図 11 は、MultiTerm 単体で起動した場合です。

図 11 用語管理ツール MultiTerm



サンプルの用語ベースを開いてみましょう。「用語ベース」メニューから[用語ベースを開く]を選択し、[参照]ボタンを押して、Windows XP ではマイ ドキュメント(Vista ではドキュメント)以下の¥SDL Trados Studio¥Projects¥Samples¥SampleProject¥Termbase にある Printer.sdltb を開きます。

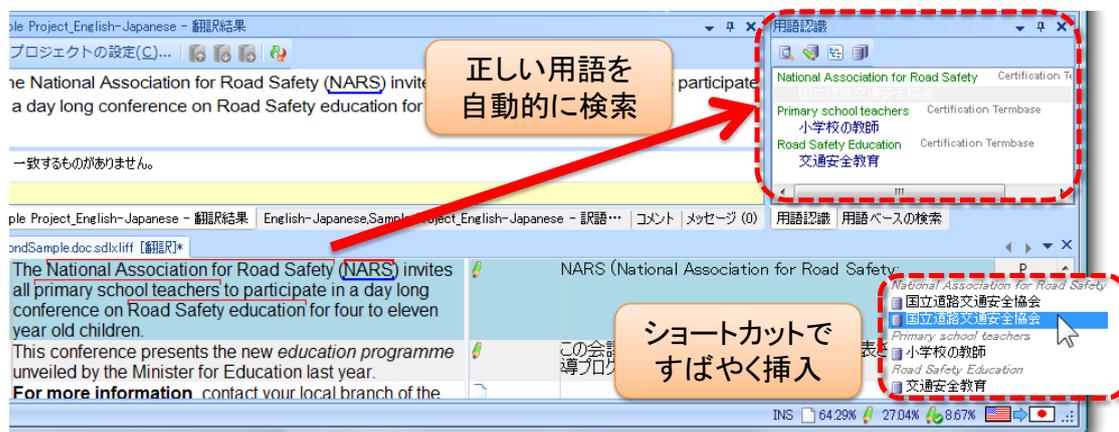
辞書引きソフトと同じように、調べたい単語(ここでは"power")を入力して検索できます。

MultiTerm では、図 11 のように、一度に複数の言語を検索できます。また、写真や解説などを含めることもできます。

## 自動用語認識

Studio 2011 では、MultiTerm を使わずに直接用語ベースを参照できます。翻訳単位を編集する際に、用語ベースに存在する用語がエディタ ビューの右上に自動的に表示されます。

図 12 自動用語認識



用語ベースに存在する用語は、原文の単語の上の赤い線で示されています。この機能を**自動用語認識**と呼びます。この機能のおかげで、一つ一つの単語を調べなくても、正しい訳語を確認できます。さらに Ctrl+Shift+L のショートカット キーを使うと、右上に表示された結果を、訳文にすばやく挿入できます。長い単語の入力ミスを防ぐこともできます。多数の用語が使われる翻訳プロジェクトでは、用語集は必須です。

## 強力なあいまい検索の利点

用語管理ツール MultiTerm の特徴の一つは、強力な**あいまい検索**です。翻訳に実際に使われる用語では、多かれ少なかれ、表記の違い、「ゆれ」が必ず発生します。たとえば同じ語が **login** と書かれていたり、**log-in** と書かれていたりします。あらかじめすべての表記のゆれを含む用語集を作るのは大変です。こんな場合にはあいまい検索が非常に役立ちます。自動用語認識が機能して、あいまい検索がされると、原文と多少のずれがあっても用語だと分かるのです。たとえば原文ではイギリス英語で **education programme** と表記されていても、**education**

**program** という表記で用語集に登録されていれば自動的に検索されます(右図)。



MultiTerm のあいまい検索では、複数形、スペルミス、ハイフンの有無、語のあいだの空白の有無など、わずかな違いがあっても目的の単語を検索できます。

よく Excel で用語管理をしている人がいます。しかし、Excel はもともと文章を扱うようにはできておらず、あいまい検索はできません。また Word にはあいまい検索機能はありますが、大文字小文字などあらかじめ決まったパターンしか扱えません。MultiTerm を使えば、予想外のずれでも確実に検索することができるので、調べる手間を減らし、間違いを防ぐことができます。

## まとめ

- 用語集は正確な翻訳には不可欠！
- 用語管理ツール MultiTerm は単体でも使用可能
- あいまい検索では、表記がバラバラでも用語を確実に確認できる

## 12. 統合ツール WinAlign

Studio 2011 に付属する統合ツール WinAlign を使えば、翻訳メモリを使わずに以前に翻訳した原文文書と訳文文書から、翻訳メモリを作成することができます。たとえば、Trados を使い始めたばかりで、翻訳メモリがまだない場合でも、以前の翻訳結果から翻訳メモリを作成することができます。

下図のように、原文文書を左、訳文文書を右に並べ、1 文単位で対応関係を付けて翻訳単位 (原文センテンスと訳文センテンスのペア) を作ります。この作業を「整合」と呼びます。



多くの場合、原文センテンスと訳文センテンスは、一対一で対応しています。そのため、対応関係の多くは自動的に付けられます。しかし、時には、原文 1 センテンスを訳文にするときに 2 センテンス以上に分割することがあります。逆に、複数の原文センテンスをまとめて 1 センテンスの訳文にすることもあります。また、センテンスの順番を入れ替えて翻訳することもあります。このような場合は、人間がセンテンスの対応関係を確認する必要があります。WinAlign は、この整合作業を支援するためのツールです。

翻訳メモリは、「再利用できる箇所を再利用する」という考え方です。WinAlign で作った翻訳メモリも、「100%再利用」できるということはありません。たとえば、以前に、Trados を使わずにある文書の第 1 版を翻訳したとします。今後 Trados で翻訳する文書が第 2 版であり、第 1 版から再利用できる箇所がかなりあれば、WinAlign を使うと便利です。整合作業をする利点があるかの見極めが重要です。

また、旧版で、用語集を使った用語管理や表記統一を行っていない場合、用語や表記がばらついていきます。WinAlign で翻訳メモリの形にすると、用語や表記のばらつきを簡単に確認できます。逆に言えば、最初から Trados で作業して作られた翻訳メモリは、ばらつきの少ない、より高品質の翻訳資産です。WinAlign で作成した翻訳メモリでは、ばらついていることがあるため、ペナルティが付けられ、一律に一致率が下げられます。Studio 上で、翻訳者が確認した後で、正規の翻訳メモリの一部として取り込まれることになります。

# 13. 索引

|                  |    |                        |    |
|------------------|----|------------------------|----|
| あいまい検索.....      | 43 | ペナルティ.....             | 31 |
| 自動反映.....        | 25 | 翻訳支援ツール.....           | 5  |
| 自動用語認識.....      | 43 | 翻訳ソフト.....             | 5  |
| 整合.....          | 8  | 翻訳単位.....              | 6  |
| ナビゲーション ペイン..... | 9  | 翻訳メモリ.....             | 4  |
| バイリンガル文書.....    | 17 | 翻訳メモリ ツール.....         | 5  |
| パッケージ.....       | 12 | 訳語検索.....              | 30 |
| ビュー.....         | 9  | 訳文の生成.....             | 18 |
| プレビュー表示.....     | 19 | 用語管理ツール MultiTerm..... | 39 |
| プロジェクト.....      | 10 | 用語集.....               | 39 |
| 分節.....          | 6  | 用語ベース.....             | 41 |

## お問い合わせ先

SDL Trados 製品、また本書の内容についてのお問い合わせは、弊社サイト上の「お問い合わせフォーム」よりお願いいたします。

一般企業のお客様:

<http://www.sdl.com/jp/contactus/>

翻訳会社または個人のお客様:

<http://www.translationzone.com/jp/Contact/>